

## R7 音楽科学習指導研究委員会

### 一 研究テーマ

『アクティブな鑑賞の授業を目指して

～児童・生徒が知覚と感受を結びつけられるようになるための支援のあり方～』

### 二 テーマ設定の理由

昨年度は、『教師は教えるのプロである』という意識から『教師は、学びのファシリテーターである』という方向にシフトしていくために、教師の支援を研究テーマに設定し、研究を進めてきた。その中で、主事先生より下記①～④についてご指導いただいた。ご指導を生かしながら今年度も引き続き、教師の支援のあり方にスポットを当てて研究をすることにした。

- ①ファシリテーターとは、子どもが思っていることに価値づけをすること。くり返すこと。
- ②解決を促進すること。
- ③価値づけて、認めること。音楽的な見方・考え方を働かせて、もっとこうしたいなあという主体的な学びにつなげること。
- ④ファシリテーターとは、学びの見通しを持たせる役割。見通しを持たせる工夫が大事である。

### 三 研究内容 テーマを受けて、下記のように研究内容を設定した

【授業改善：鑑賞領域を中心に】菅平小学校・丸子中央小学校の授業から学ばせていただいた

- ①鑑賞の授業での学び合い・関わりあい ペア学習などの学習形態について
- ②鑑賞の授業での IC 機器の有効的な使い方について
- ③鑑賞での知覚と感受を結びつけるための支援の在り方
- ④表現する言語が少ない児童・生徒への支援の在り方

【授業研究・授業研修の在り方を考える】

- ①「音楽科学習指導研究委員会」「上小音楽同好会」「長野県音楽教育学会上小地区」3者の音楽科教員団体に連携し、授業研究や研修の在り方を検討
- ②令和8年度全県の音楽教育研究大会が上小地区で開催されることを契機と捉え、その研究を①の3者で行い、教育課程研究協議会の在り方を重ね、音楽科教諭の研究研修のよりよい方向を考えていく。

### 四 研究の経過

- (1) 令和7年 5月 1日 (木) 第1回委員会
- (2) 令和7年 5月23日 (金) 第2回委員会 教育会館
- (3) 令和7年 7月 8日 (火) 第3回委員会 菅平小学校授業公開 研修
- (4) 令和7年 8月19日 (火) ギター・箏 楽器講習会 兼音楽同好会共催
- (5) 令和7年11月14日 (金) 第4回委員会丸子中央小研究授業教材研究
- (6) 令和7年11月21日 (金) 丸子中央小学校研究授業
- (7) 令和7年11月25日 (火) 第5回委員会研究のまとめと来年度への方向  
令和8年 1月 9日 (金) 研究のまとめの提出

令和7年11月21日(金) 5校時  
 上田市立丸子中央小学校 4年1組35名  
 授業者

## 1 研究テーマ

全校研究テーマ

子ども自らが考え合い、学び合う授業づくり ～対話したくなるような心揺さぶる問い～

音楽科委員会研究テーマ

アクティブな鑑賞の授業を目指して ～児童・生徒が知覚と感受を結びつけられるようになるための支援のあり方～

## 2 題材名 「旋律の重なりを感じ取ろう」

教材名 鑑賞「アルルの女」第2組曲から『ファランドール』 歌唱『もみじ』

## 3 題材に寄せる教師の願い

4年1組の児童たちはリズムにのって歌うことができ、音楽会では発声に気をつけて見事な二部合唱を発表することができた。『こきりこ』を鑑賞する学習では、こぶしの効いた独特な歌い方の旋律や日本に伝わる伝統的な楽器の音色を聴き取ることができた。

一方で、『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』を鑑賞する学習では、楽曲の雰囲気から「楽しい曲。」「おもしろい曲。」と言葉で表すにとどまってしまう、どこからそう感じたのかを明確にすることはできなかった。授業者の発問が感受に関することに終始してしまったせいで、曲の細かい部分を聴き取ることができなかったのではとふりかえる。知覚できた音や音楽の要素のはたらきが少ないと、感受を表す言葉も単一なものになりがちだった。児童たちが自分の感受性をはたらかせ、曲のよさを味わえるようにするために、まずはどの児童も音や音楽の要素のはたらきが知覚できるような鑑賞の授業づくりをしていきたいと考えた。そこで『ファランドール』の2つの旋律を聴き取った児童たちが、2つの旋律が重なっていることに気づき、『ファランドール』やそのあとに歌う『もみじ』の曲のよさや曲想の変化と結びつけられるようになってほしいと願い、本題材を設定した。

## 4 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気づくとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて表現する技能を身に付ける。
- (2) 旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き合ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む、様々な音楽に見られる旋律の重なりに親しむ。

・学習指導要領との関連 A 表現(1)歌唱ア、イ、ウ(イ)(ウ) B 鑑賞ア、イ

・[共通事項] 音楽を形づくっている要素

ア 旋律、音の重なり、音色 イ 反復、音楽の縦と横との関係

5 題材の評価規準と評価計画 (全4時間)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材全体	曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気づくとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて表現する技能を身に付けている。	旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き合ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりしている。	旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる旋律の重なりに親しんでいる。
第1時 本時 (ファラ ンドー ル)	<b>知</b> (鑑賞) 曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気づいている。		<b>態</b> (鑑賞) 旋律が重なる面白さを感じ取りながら聴く学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第2時 (もみ じ)	<b>知</b> (歌唱) 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気づいている。	<b>思</b> (歌唱) 旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> (歌唱) 旋律が重なる面白さを感じ取りながら歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第3時 (もみ じ)	<b>技</b> (歌唱) 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身につけている。		<b>態</b> (歌唱) 旋律が重なる美しさを感じ取りながら、友だちと声を合わせて表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
第4時 (もみじ)	↓	↓	↓

## 6 題材デザイン

第1時  
(本時)

【学習問題】 旋律の重なりを聴き取ろう

- ・合唱は重なっていたよね。 ・こぎりこのときは、楽器の音や歌い方を確かめるためにたくさん聞いたね。

【学習課題】 くりかえし聴いて、旋律の重なりを見つけよう

これから聴く曲は1の旋律と2の旋律がどこかで聞こえてくるかもしれません。

- ・1の旋律から始まったよ。 ・つぎは2の旋律だ。
- ・途中から同時になっていたよ。 ・聞こえなかった。確かめたい。
- ・1と2の旋律が同時に聞こえるね。 ・重なっているところなんだ。

1の旋律と2の旋律、今日のところでどっちが気に入ったかな？

- ・1の旋律の方が気に入った。強い音だから。
- ・2の旋律の方が気に入った。笛の音だったから。
- ・2つの旋律が重なると、もっといろいろな楽器の音が聞こえるね。

第2・3・4時

- ・2つの旋律が重なる曲をきいたね。 ・『もみじ』はどこで重なるのかな。

【学習問題】 『もみじ』の旋律を重ねて歌おう。

1の旋律（主旋律）が出てきたら手を挙げて聴いてみよう。

- ・はじめは追いかけっこみたいに何回も聞こえるよ。 ・追いかけっこで重なってるね。
- ・途中は追いかけっこじゃなくなるけど、ハーモニーになっている気がする。
- ・最後は全然ちがう旋律になってたよ。 ・重なり方が全部ちがう。
- ・2の旋律（副次的な旋律）も歌ってみたいな。 ・重ねて歌うとうまくいかないな。

どういうふうに歌えたら、うまく重なったなって伝わるかな？

- ・音程に気をつけたいな。 ・追いかけっこは2つとも同じくらいの強さにしたいな。
- ・リズムがちがうところを目立たせて歌いたいな。
- ・『とんび』ときみたいに、旋律を切らないで歌いたいな。

【学習課題】 グループで〇〇を工夫して、**したい!**歌い方に近づけよう

- ・まだお互いの旋律を聴くと歌えないから、パート練習をしよう。
- ・一度、どんな重なりになっているか録音してみよう。
- ・どんな強弱にするかグループで相談しよう。
- ・〇〇さんの歌い方に合わせてみようよ。
- ・〇〇さんたちのグループは追いかけっこが上手に歌えていた。
- ・〇〇さんたちのグループはぴったり重なったときのハーモニーがきれいだった。

どの重なり方が気に入ったかな？

- ・最初の追いかけっこの重なり方がいいな。 ・ぴったり重なるところがきれいでいいな。
- ・最後のリズムがちがう重なり方がいいな。最後は盛り上がり終わる感じがするから。

7 本時案

(1) 主眼

『とんび』で旋律の特徴を聴き取った子どもたちが、『ファランドール』の2つの旋律がどのような順で演奏されているか聴くことを通して、2つの旋律の重なりを聴き取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○教師の指導や支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間
導入	・ 常時活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">学習問題：旋律の重なりを聴き取ろう</div>	・ 合唱みたいになってるのかな。 ・ 『こきりこ』は楽器の音を何回も聴いたよ。	○ 『こきりこ』や『とんび』でどのように旋律を聴き取ったかを想起させる。	10
展開	学習課題：くりかえし聞いて旋律の重なりを見つけよう ① 2つの旋律を聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">1の旋律</div> ・ 大きい音でびっくりした。 ・ 「ランランラン」で歌ってみよう。 ・ 2の旋律はどんな感じかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">2の旋律</div> ② 全曲を通して聴く。 ・ 1の旋律と全然ちがう感じだなあ。 ・ 「ルルル」で歌ってみよう。 ・ 全然ちがう旋律だけど、どうやって重なるの？ ・ 旋律1と旋律2が交代で出てくる。 ・ だんだんすぐ交代するようになった。 ・ 一緒に聞こえた気がする。 ・ もう1回聴いてみよう。 ・ 全然ちがう旋律が同時に聞こえるね。 ③ 曲の前半と後半で、どちらが気に入ったか選ぶ。 ・ 途中で重なるんだ。・ 終わり方がおもしろいな。 ・ 後半の重なるの部分がいろんな音が聞こえて気に入った。 ・ 後半の重なるの部分が盛り上がっていたので気に入った。 ・ 前半の交代の部分が気に入った。次にどちらが来るかどきどきして楽しいから。	○ 2つ旋律があることを伝え、2つの旋律をそれぞれ分けて聴かせる。 ○ 口ずさんで旋律を覚えられるようにする。  ○ それぞれの旋律が聞こえたら指で数字を出すように伝え、反応を観察する。 ○ 教師も一緒に指で数字を提示し、旋律の変化や重なり気づけていない児童の支援をする。 ○ 聴き方を変えながら、何回も音楽にふれるようにする。 ○ 理由を付箋に書き、友だちと考えを交流する。	25	
終末	④ 本時の学習をふり返る。	・ 何回も聴いて、旋律1と旋律2が交代で出てきたあと、重なって終わるのがわかった。 ・ だんだん素早い交代になって、重なるところに向けて盛り上がっていくのがおもしろかった。 ・ 重なったときは全然ちがう旋律なのに、音楽が豪華になっていておもしろかった。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2つの旋律の重なり気づくことができる。(観察・記述)</div>	10

### (3) 授業を見返す観点

- ・聴く観点を児童に示し、身体反応をさせながら音楽を聴いたことは、重なりを聴き取ることにに対して有効だったか。
- ・聴く観点を児童に示し、何度も音楽を聴いたことは、児童が楽曲のよさにふれることにつながっていたか。

## 8 研究で先生方から出されたご意見と具体的な児童の姿から

### よかったこと、成果

#### (1) 導入

- ・前時からの学習のふりかえりから本時の学習課題につながっていた。
- ・『こきりこ』の経験から「何回も聴けばいい」という言葉が子どもたちから出て、課題としてすわったので子どもたちにとってわかりやすかった。

#### (2) 展開



指で表す ①の旋律は① ②の旋律②

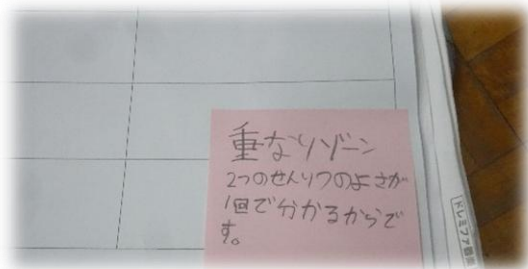


旋律① 旋律②のグループで、自分の担当の旋律が流れたら、立つ

- ・ラララやルルルで実際に口にして旋律を追うことはよいやり方だった。
- ・①と②の旋律を短く別々に何回も聴くことで、特徴をとらえることができていた。聴いているときの子どもたちの体の動き方を見ていて、それが伝わってきた。
- ・ただ聴くのではなく、**体の動きと連動させること**で集中して楽しみながら聴く姿があった。
- ・常時活動も含めて、普段から体を動かしながら音楽を楽しんでいるので、今回も体を動かしながら旋律を聴き取ることに抵抗はない様子だった。
- ・①と②の旋律が流れたときに**手や指を動かしたり、立ったり座ったりするのは、聴覚でとらえたものと体の動きをリンクさせる方法**として有効だった。子どもたちの反応もわかりやすく、子どもたち同士見合っているのもよかった。
- ・指で旋律①と②を表すことは、重なりを見つける手段になっていた。よく音楽を聴こうとしていた。
- ・**体を反応させて聴いたことは、どの子も旋律を聞き分けるための有効な手段**であったと思う。指から体を動かすことに変えた順もよかった。自信のない子も何度か聴いているうちに理解できていった。
- ・指で旋律①と②を表す行動や、立ったり座ったりすること、板書の図、教師の例示が明確だったので、子ども

たちが自信をもって学習に取り組めたとし、音楽を聴くことに集中できた。

- ・何度も聴くことで旋律②の細かいリズムをとっていた児童が旋律①を感じ取っている体の揺れに変化していた。重なりを感じ取っていたと思う。
- ・重なりを聴き取る場面で、「どうなった？」と教師が聞いたら子どもから「高くなって・・・」という返事が返ってきたが、教師がすかさず「旋律1と2、出てきた？」と言い直していた。これにより子どもの意識が旋律にすっと戻ったと思う。
- ・自分の感じ方と友だちの感じ方を付箋で共有するのはよかった。



友だちと気に入った場面について語っている場面

### (3) 終末

- ・本時、何を学んだかを教師がおさえて、子どもたちが意識してふりかえることができた。



2つの旋律のあらわれ方、重なり方について視覚で確認し、何を学んだのかおさえている場面

## 課題

### (1) 導入

- ・教師が「旋律の重なりを聴き取る」と提示した後、子どもたちの中から、それをやりたいという思いが生まれる課題設定にするには、もう一工夫できたか。
- ・全校研究テーマ『対話したくなるような心揺さぶる問い』を音楽科としても位置づけていきたい。
- ・常時活動は本時のねらいに即したものだとしてさらに子どもの意識を高められるのではないかと。今回は「旋律の重なり」なので、パートナーソングやカノンを楽しむとよいのでは。カノンはファランドールで子どもがつまずくところなので、あるとよかった。

### (2) 展開

- ・指で旋律①と②を出すだけでなく、「わからない」というサインがあったら子どもも安心して間違えられたか。教師の動きに合わせて出している子どもが多かったように感じた。

- ・指のサインや立ったり座ったりなど、もう少し子どもに迷わせたかった。
- ・繰り返し聴くことについて、本時の子どもたちには有効だったが、何回聴くかについては子どもの実態によって少なくしたり多くしたり調整が必要だと思った。
- ・子どもたちがまちがった方向に行くことを避けるように、教師が子どもの考えや意見を軌道修正してしまうが、その間違いや疑問を生かして気づきにもっていけたらよいと思う。たとえば、ファランドールの旋律①のカノンの部分で座った子が大半だったが、教師に言われて立った。なんで座ったのかちがいに気づき、旋律①にするのか②にするのかみんなで考えたい。
- ・教師のフェイントに引っかかっている児童がいた。教師が毎回やるのではなく、子どもたちでできるのか見てみたい。
- ・「三人の王の行進」「馬のダンス」ではなく、旋律①と②にしたことに意図はあったのか。原曲を紹介することで、納得する児童もいたのでは。
- ・付箋を黒板に貼ってみてもよかった。それぞれの意見を知る機会になった。どちらのゾーンが多いのか、なぜなのかが気になる。
- ・曲のどの部分が気に入ったか考える場面では、根拠がけっこうアバウトだった。

### (3) 終末

- ・楽曲のよさに触れるには、個々の考えを広げるために、教師の例示よりはるかに表現している児童を見つけて全体で取り上げるのがよい。
- ・何人か、感受にふれた感想に少しふれて、「〇〇な感じがしたんだね」と終われるとよかった。
- ・今回は異なる旋律の重なりだったが、次時に『もみじ』を学習する時には、『ファランドール』の①の旋律のカノンについてもふれられるとよい。

## 9 指導主事からのご指導

- ・『知覚』『感受』は中学校の指導要領の言葉。小学校は『聴き取ったこと』『感じ取ったこと』と表記している。区別をしたい。
- ・題材の目標と学習指導要領との関連について、確認が必要。学習指導要領の指導項目として挙げたものは、題材の目標にも入れ込まなくてはいけない。
- ・共通事項はその題材のメインの切り口となる要素から選びたい。今回は『旋律』『音の重なり』だけでもよかったか。
- ・鑑賞の授業は何回聴かせられるかが勝負。聴き方や学習形態を変えて、たくさん音楽にふれさせたい。今回は一斉授業の形だったが、友だちがいることで聴ける子どももいるので、ペアやグループなどを取りいれたい。
- ・気に入った理由が『感じ取ったこと』をもとにして書いている子どもがいた。『聴き取ったこと』を根拠にして考えられるように教師の出が必要だった。『聴き取ったこと』と『感じ取ったこと』を関わらせて考えられるような発問ができればよい。

## 六 研究のまとめ

- ・アクティブに指や手、体を連動させて鑑賞することで、旋律を捉えることにつながった。
- ・丸子中央小学校の授業では、鑑賞の知覚について扱ったが、知覚したことからどんなことを感じるのか、知覚と感受についての支援のあり方について、今後も研究を続けていきたい。
- ・扱う共通事項について、題材のメインとなるものをしぼって選ぶように教材研究を行っていきたい。

## 七 音楽科学習指導研究委員会 活動のまとめと来年度への課題

### 活動のまとめ

#### ①授業公開校から学ぶ

教育課程のない今年度、2校（菅平小学校・丸子中央小学校）が授業を公開してくださった。菅平小学校では、ICTをフルに生かし、絵と音楽を結び付ける鑑賞の授業。丸子中央小学校では、2つの旋律を知覚し、異なった2つの旋律の重なりに気づき、味わう授業。を参観させていただいた。両校の児童が意欲的に学ぶ姿が、どのような教師の支援により生まれているのか参考になり、今後の授業作りにつながる研修ができた。

②音楽科学習指導研究委員会と音楽同好会の共催により、打楽器・ギターの講習会を行うことができた。講習会への参加者は、各講座とも5・6名程度だったが、専門的なことを教えていただける貴重な機会であった。参加者と、情報交換もでき、有意義な時間であった。

### 来年度への要望と来年度へ向けて

- ・来年度も、専門の楽器講師をお呼びして技能や調整を教えてください。研修を行ってほしい。（今年度は、打楽器・ギター講習を行った）
- ・各校音楽科1名が多いので、情報交換する機会は大事にしていきたい。
- ・来年度、県音楽学会で上小地区は授業を公開するので、学会と授業校と協力して、研究を進めていきたい。